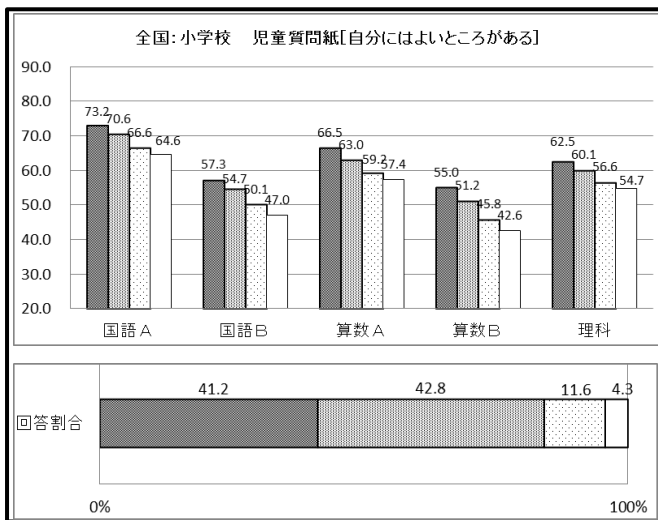


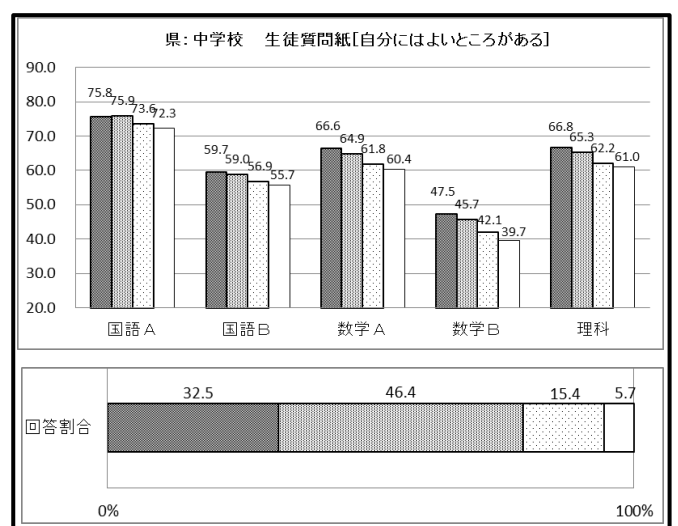
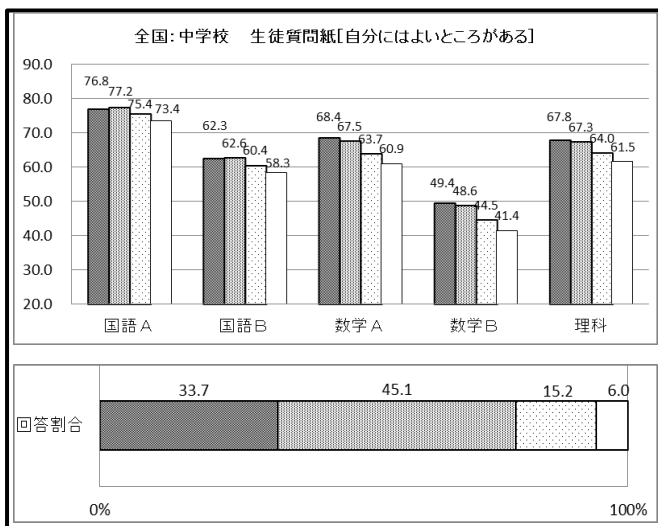
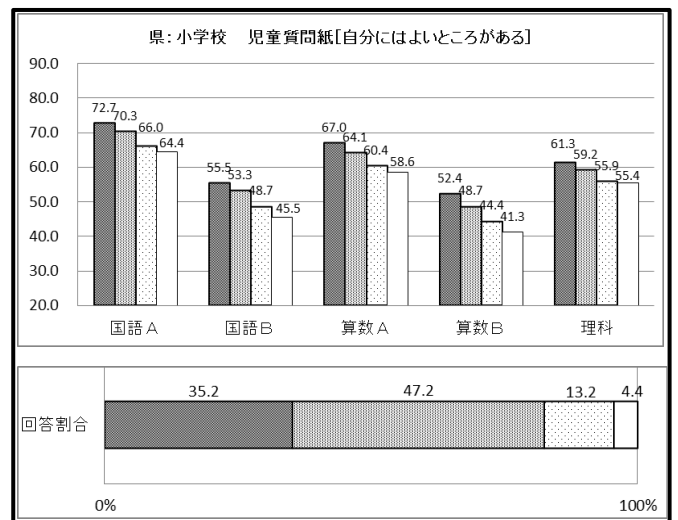
「日頃から児童生徒のがんばりを認める教師の関わり方」や「児童生徒が互いによさを認め合える学級集団づくり」が大切だと言われます。児童生徒の自己有用感と学力には相関関係が見られます。

「自分には、よいところがあると思う」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高いという傾向が見られます。

【全国】



【本県】

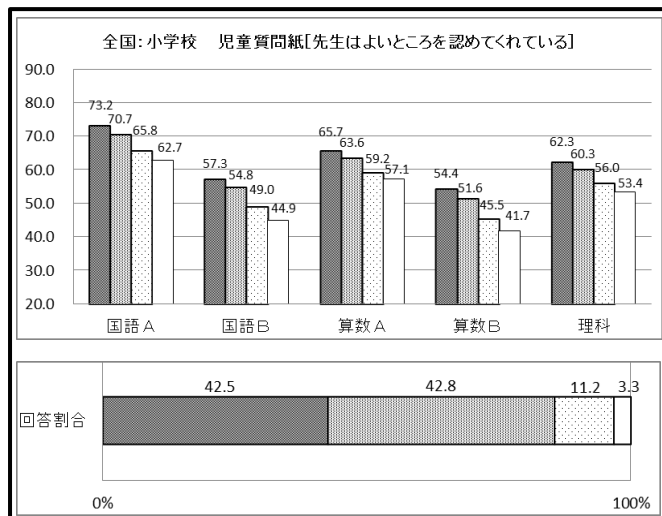


■ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▤ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

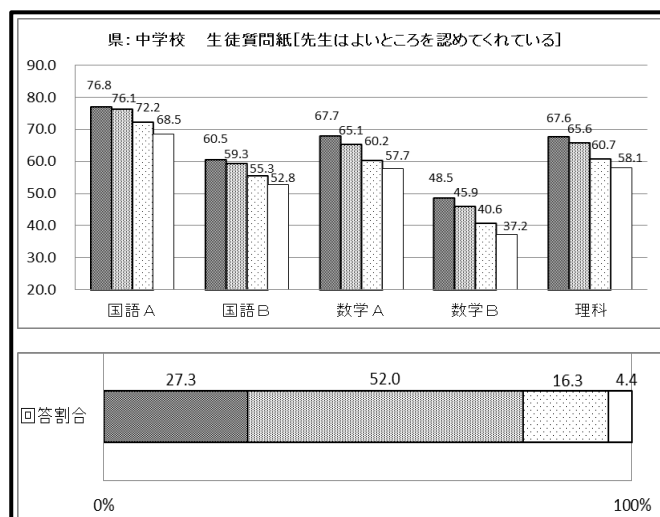
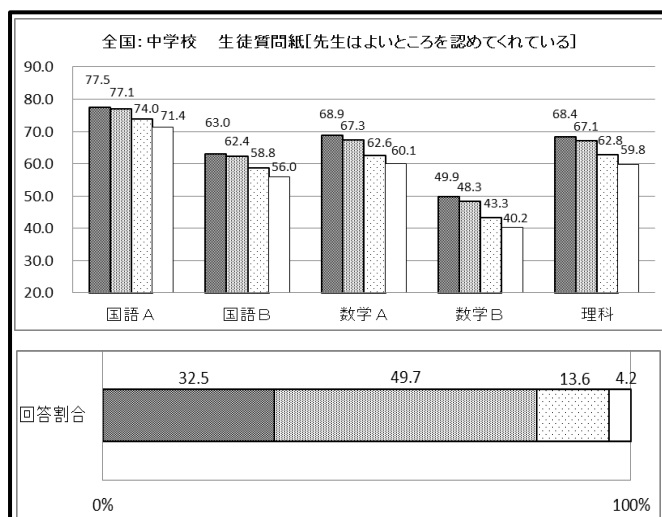
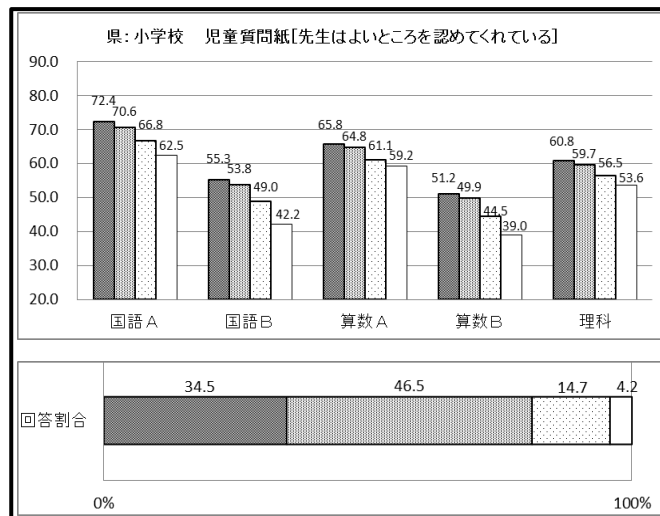
「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国的に増加傾向にあり、これは鹿児島県も同じです。県の肯定的な回答の割合は、10年前と比較すると、小学校は7.7%、中学校は17.2%増加しています。

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高いという傾向が見られます。

【全国】



【本県】



■ 当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

全国の分析によると、「先生に認められている」と感じている児童生徒は、「自分にはよいところがある」という自己有用感が高い傾向があります。教師の言葉が生徒の自己有用感につながり、それが学びへの主体性や学力そのものにつながっていくものと考えられます。

◎ 発表の場面をつくり、しっかりほめる。

※ 自己有用感と学力の関係は、小・中学校ともに、全ての教科で「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られます。この傾向は、本県でも全国と同様です。本県の児童生徒の自己有用感については、昨年度と比べ少し高くなった項目もありますが、全国と比べ全般的に低い状況にあります。

授業等において、友達と語り合う場面をできるだけ多くつくり、友達の話聞き、自分の考えや意見を発表するという経験をさせましょう。また、発表をしたときは、「しっかりほめる」など認め励まししながら、児童生徒の自己有用感を高める学級集団づくりに取り組みましょう。